

[神の筆跡]

神の書かれた文字はあまりにも雄大だ
私の近視眼では理解することができない
わずかに その一画をとらえて
奥義のすべてを推し量ろうとする
失望 死 そして人生
果てしない戦いや 無益な争い
そのすべての奥義を解こうとする

しかし 目を離してよく見なさい
目のちりを除いてよく見なさい
そうすれば 悟ることができるだろう
やはり神の道は正しかったのだと

ジョン・オクセナム
Bees in Amber より

■識別力の訓練 (1/2)

主のみこころは何であるかを、よく悟りなさい。(エペソ 5:17)

「開いた目をもって見るように人生を深く洞察すること」は、この詩人の深遠な鋭い祈りである。だれも、人生における突発的な出来事を避けることはできない。しかし私たちは、霊的な洞察力と勇気をもってそれらの事態に直面すべきである。しっかりと目を据えて、心を騒がさず、それらの突発事件を見つめるためには、はたしてそれらが全能者の御旨から出たものであるか、それとも破壊的な暗黒の霊力である悪魔の策謀から出たものであるかを知らなければならない。私たちを取り巻いている環境は、はたして日々を負うべき十字架なのか(ルカ 9:23)、人間のたましいの敵からののろいなのか(ルカ 13:16)、私たちの肉体に与えられたとげの打撃なのか(Ⅱコリント 12:7)、悪しき者の放つ火矢の一突きなのか(エペソ 6:16)、私たちの心を探り窮めるための手段なのか(ローマ 8:27)、あるいはサタンによってふるいにかけているのか(ルカ 22:31)、私たちの信仰の試練なのか(Ⅰペテロ 1:7)、あるいは偽りの父の一時的勝利なのか(マタイ 13:19、ヨハネ 8:44)。

私たちの心が騒ぐのは、私たちの罪のゆえに、神の恵み深い御霊が罪を自覚させてくださっているのか(詩篇 32:4)、それとも、神の民を執念深く訴える者の非難のせい(黙示録 12:10、Ⅰテモテ 3:6)。行こうとする道が閉ざされているのは、聖霊のお働きによるのか(使徒 16:6、7)、それともサタンの妨害によるのか(Ⅰテサロニケ 2:18、ローマ 15:22)。一見門戸が開かれているように思えるのは、主の

ご計画のゆえか（Ⅰコリント 16:9、黙示録 3:8）、それとも偽りの霊の謀計なのか（Ⅰ列王 22:6、22）。私たちに差し伸べられている援助は、仕える霊として遣わされた御使いたちから来たものか（ヘブル 1:14）、それとも、私たちを暗黒の中に導いてゆこうとする偽の光の天使によるものか（Ⅱコリント 11:14）。主にあって強くなり、前進すべきか（エペソ 6:10）、それとも、狩人のわなに用心すべきか（詩篇 91:3、Ⅱテモテ 2:26）。神のみこころと思われることに身をゆだねるべきか、それとも、実際には悪魔の計略であるものに立ち向かうべきか（どちらの思想もヤコブ 4:7にある）。

私たちは、何らかの方法で「良い物と悪い物とを見分ける」ように訓練されなければならない（ヘブル 5:14）。そのような識別力は霊的に成人した者の働きであるべきである（ヘブル 5:11-14、エペソ 4:14-16、6:10-18、ピリピ 3:15-19）。私たちの識別力が霊的なものであるためには、霊的真理を霊のことばをもって解釈しなければならない（Ⅰコリント 2:12-16）。そこには「霊を見分ける力」という特別な賜物がある（12:10）。そして私たちは、このような天来の助けに対して、総じてあまりにも少しの注意しか払われていないということに驚き、困惑するのである。ここに、識別力の訓練がある。すなわち、真理の御霊と虚偽の霊とを識別し、神のみこころとサタンの働きかけとを識別し、どこまでが信仰の範囲で、どこからが単なる狂信的幻想であるかを識別し、三位一体の神のお約束と誘惑者の提示する虚偽とを識別する訓練である。

神のみことばの中には、真理と虚偽、光とやみ、確信と断罪、十字架とのろいが対照的に示されている。そこには、この識別力の訓練を形造っている標準がある。今あなたの信仰と勇気を試みている火のような試練において、みことばに示されているこれらの試金石を活用しなさい（Ⅰペテロ 1:6、7、4:12、13）。

ベルゼブルは、私たちのしでかした失策をなじるが、やさしい聖霊は、雪よりも白くする尊い血潮のことを語られる（イザヤ 1:18、Ⅰヨハネ 1:7）。

【V・レイモンド・エドマン 人生の訓練 第二十一章「識別力の訓練」より】
※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい。